

忠別川川づくり検討会

設 立 趣 旨

忠別川は、その源を忠別岳に発し、天人峡を抜け忠別ダムに入り、上川盆地の田園地帯を流れ、旭川市街部で石狩川本川に合流する幹川流路延長 59km、流域面積 1,063km²の河川である。治水事業の進捗とともに流域の土地利用が進み、水利用などの恩恵を受けて人々は暮らしや産業を営んでいる。また、北海道らしい壮大な景観を有し、多様な生物が生息・生育する場、周辺住民が水辺に親しむ場などとなっている。

近年、忠別川では、中規模以上の洪水発生頻度の減少や、河道特性の変化などに起因して、河道内で樹林化が進行していると考えられている。適正な河川管理を行わなければ、樹木の成長に伴う流下能力の減少や、河川管理施設の損傷など治水面への影響が、また、河川に由来する生物相の変化や、遡上数が回復しつつあるサケの産卵床の適地となる砂礫河床の減少など環境面への影響が懸念されることから、河道内樹木の管理が重要であると考えられる。

一方、河道内樹木の管理については、地域には様々な意見があることから、実施に当たっては地域の理解と協力を得ることが求められている。

このため、治水機能を確保するとともに、忠別川に由来する生物の生息・生育環境を保全するため、河川を利活用する地域住民の意見を踏まえつつ、適正な河畔林管理などを行うための“川づくり計画”を策定する必要がある。

そこで、地域やNPOの代表、有識者で構成される「忠別川川づくり検討会」を設立し、忠別川流域の現状や課題及び将来像、並びに地域と連携・協働できる川づくりについて意見交換を行い、川づくりに対する考え方をとりまとめ、忠別川の地域に望まれた川づくりの計画に資するものである。